



地震や豪雨被災地支援

AMD Aと 県立大、総社市 連携協定に調印

国際医療ボランティアAMD A（本部・岡山市北区伊福町）と県立大（総社市窪木）、総社市は10日、市外で地震や豪雨などが発生したとき、被災地を連携して支援する協定を結んだ。

協定書に調印する（左から）

菅波代表、辻学長、片岡市長ら

同市役所で調印式があり、AMD Aの菅波茂代表、県立大の辻英明学長、片岡聡一市長が協定書に署名、押印した。

菅波代表は訓練として、AMD Aが海外で展開する医療支援活動に市職員や県立大の教員らに参加してもらう考えを表明。片岡市長は被災地支援の経費を

予算化し、条例も制定する意向を示した。辻学長は「支援を通じ、危機管理の在り方などを研究していく」と述べた。

協定に基づき、AMD Aは医療スタッフ、県立大は教員や学生ボランティア、市は救済物資などを災害発生から3日以内に現地に送る。物資や人の移動に必要な車両や運転手は市が用意する。

（森元俊一朗）